

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330209

研究課題名（和文） 自己意識の特性をふまえた軽度発達障害児への生涯発達の視点からの心理教育的支援

研究課題名（英文） Psychological and educational approach for children with developmental disorders in life-span development

研究代表者

田中 真理（TANAKA MARI）

東北大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：70274412

研究代表者の専門分野：発達障害学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：発達障害、心理教育的支援、生涯発達

1. 研究計画の概要

学習障害、注意欠陥/多動性障害（以下ADHD）、高機能自閉症、アスペルガー障害等の軽度発達障害のある子ども（以下、対象児）を対象とした特別支援教育における具体的な支援策の構築・実現、教育的・社会的な急務課題となっており様々な取り組みがなされてきたが、そこには次のような問題点がある。①ある年齢段階のある発達障害へのある特性に対する一面的な支援に留まり、生涯発達の視点に立脚した障害児にとって「真」に役立つ有機的支援になっていない、②支援する側からの視点が前面に出た対策であり、対象児の視点に立脚した支援策ではない、③対象児の視点に立脚した支援策を考えると、何をそのキー概念（手がかりの核）にするか明確でない。そこで、本研究では、支援される側の生活世界や精神世界に注目し、対象児の視点に立脚した生涯発達の視点からの教育支援の在り方を検討していく。その際、支援の在り方は、“対象児自身がどのような自己意識を抱いているか、その自己意識の在り方によって周囲の者との関係性のあり方が大きく異なる”ことは言うまでもない。そこで、生涯発達の視点からの教育支援を考えるにあたり、「自己意識の発達を手がかりの核」にし、その発達に対応した支援教育を検討する。

これらの目的を遂行するために本研究では、（1）多面的視点からの心理教育的支援環境作り、（2）自己意識の特性をふまえた援助のための新たな視点の解明、（3）生涯発達支援システムの変容のプロセスの解明、の3つの柱のもとすすめてきている。

2. 研究の進捗状況

上記「（1）多面的視点からの心理教育的支援環境作り」においては、学校教育での特別支援コーディネーターに関する、アンケート調査・面接調査をすすめてきている。研究成果の一部は「小学校における特別支援教育コーディネーターの外的調整に関する研究」等としてまとめられ、学会発表および学会誌への投稿済みである。また、家族支援についても、親やきょうだいを対象とした調査を終了した。

「（2）自己意識の特性をふまえた援助のための新たな視点の解明」においては、ADHDおよびPDDを対象とした先行研究の動向を整理した。研究成果の一部は「注意欠陥/多動性障害児・者における自己認識に関する研究動向」、「思春期・青年期の自己理解」等としてまとめられ、学術誌に投稿中である。

「（3）生涯発達支援システムの変容のプロセスの解明」においては、心理臨床場面における経過を詳細に分析した。「ある青年期アスペルガー障害者における自己理解の変容ー自己理解質問および心理劇的ロールプレイングをとおしてー」、「アスペルガー障害者における自己理解の変容過程・心理劇的ロールプレイングをとおしてー」、「発達障害児を対象にしたグループワーク」『Process of Group Sessions using Psychodramatic Role Playing for Adolescents with High-functioning Pervasive Developmental Disorder：Deepening Understanding of Self and Others.』等、自己理解の変容からまとめたものはすでに学術誌へ掲載済みである。現在引き続き臨床データを継続収集および分析中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 本研究の3つの目的のいずれの領域においても、心理臨床データは来年度においても引き続き分析を行うが、これ以外のデータの収集はほぼ終了しており、まとめの段階に入っているため。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度にあたる22年度においては、新たなデータの収集よりも、これまでの研究成果を発表することを中心としてすすめる。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計24件)

①滝吉美知香・田中真理 2009 ある青年期アスペルガー障害者における自己理解の変容—自己理解質問および心理劇的ロールプレイングをとおして— 特殊教育学研究、46(5)、279-290 *査読有り

②滝吉美知香・田中真理 2009 アスペルガー障害者における自己理解の変容過程-心理劇的ロールプレイングをとおして- 心理臨床学研究、27(2)、195-207 *査読有り

③中山奈央・田中真理 2008 注意欠陥/多動性障害児の自己評価と自尊感情に関する調査研究 特殊教育学研究、46(2)、103-113. *査読有り

④小島未生・田中真理 2007 障害児の父親の育児行為に対する母親の認識と育児感情に関する調査研究.. 特殊教育学研究、44(5)、291-299 *査読有り

[学会発表] (計16件)

①M.Takiyoshi, M.Tanaka, K. Tatehana, A.Sugiyama Self-Cognition Development during Childhood and Puberty in Japan. American Psychological Association, Boston.2008/8/16